

2025年度 第2回 町田市福祉のまちづくり推進協議会

議事要旨

日 時 2025年12月15日(月) 10:00~12:00
開催形式 町田市庁舎 3階 会議室3-1 (対面とリモート併用開催)
出 欠 ●: 欠席者

■委員

◀会長▶ 川内 美彦 東洋大学人間科学総合研究所
◀職務代理▶ 佐藤 克志 日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科
(リモート出席)
● 山崎 晋 日本大学理工学部まちづくり工学科
佐々木 麻衣子 社会福祉法人 町田市社会福祉協議会 地域福祉課
井上 廣美 NPO 法人 町田ハンディキャブ友の会
佐藤 吉弥 一般社団法人 東京都建築士事務所協会 町田支部
陶山 慎治 町田商工会議所
飯長 喜一郎 NPO 法人 町田市精神障害者さるびあ会
都築 京美 町田市身体障害者福祉協会
田中 雅江 町田市視覚障害者協会
小倉 豊司 町田市老人クラブ連合会
木村 純子 町田市聴覚障害者協会
本間 美穂 町田市障がい児・者「親の会」連絡会
奥 明廣 町田市立成瀬台小学校長
川田 勝也 東京都福祉局生活福祉部企画課 ※代理出席
(リモート出席)

■幹事 (リモート出席)

水越 祐介 地域福祉部長
石井 敬子 政策経営部企画政策課長
長谷 年男 財務部営繕課長
宮坂 晃洋 防災安全部防災課長
金子 和彦 地域福祉部福祉総務課長
新谷 太 地域福祉部障がい福祉課長
武藤 正道 いきいき生活部いきいき総務課長
香月 勇人 子ども生活部子ども総務課長
市川 将志 道路部道路政策課長
戸田 勝 都市づくり部都市政策課長
仲村 茂 都市づくり部交通事業推進課長
伊藤 豪章 学校教育部教育総務課長
● 西久保 陽子 生涯学習部生涯学習総務課長

1. 協議会次第

1 開会

2 審議事項

- (1) 「心のバリアフリーハンドブック」指導者用別冊の素案について

3 報告事項

- (1) 「福祉のまちづくりに関する市民アンケート調査」の実施状況について（中間報告）

4 その他

5 閉会

《配布資料》

- ・次第
- ・資料1-1 「心のバリアフリーハンドブック」指導者用別冊 素案
- ・資料1-2 「心のバリアフリーハンドブック」指導者用別冊 冊子版
- ・資料2 「福祉のまちづくりに関する市民アンケート」調査結果（速報）

《参考資料》

- ・参考1 町田市心のバリアフリーハンドブック教員ヒアリング実施概要
- ・参考2 町田市福祉のまちづくり推進協議会委員名簿・2025年度幹事名簿

2. 議事

	<p>1 開会</p> <p>資料確認及び定足数の確認</p> <p>奥委員挨拶</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1)「心のバリアフリーハンドブック」指導者用別冊の素案について</p>
川内会長	<p>それでは早速、次第に沿って進めます。次第の2審議事項(1)「心のバリアフリーハンドブック」指導者用別冊の素案について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料1の説明)</p>
川内会長	<p>ありがとうございます。今の事務局の説明に対して、ご意見、ご質問があれば、挙手して、お名前を言ってから発言をしてください。今の事務局の説明に対して、ご意見、ご質問はございますでしょうか。</p> <p>今回の議論は資料1-1のみという認識でしょうか。それとも資料1-2でしょうか。</p>
事務局	<p>両方の資料について議論をお願いします。</p>
川内会長	<p>資料1では、例えば、まちの中にあるバリアとか、心のバリアフリーのためにできることという大きなまとめのところがアンダーラインが引いてありますよね。資料1-2の2ページの目次は重要な単元が太字で書いてあるので、まちの中にあるバリアとか、心のバリアフリーのためにできることという大きな単元のまとめのところが埋まってしまっていて、見つけにくかったです。</p> <p>単元のまとめよりはそれぞれの項目の方が実際に使ってもらうときに重要だと思えますけれども、せめてアンダーラインを入れるかして、別冊の素案と同じような条件にした方がいいのではないかと思います。</p> <p>皆さん何かご意見ございますでしょうか。</p> <p>学校の先生もお忙しいので、教育現場で先生たちが出来るだけ教材として使いやすいように、ということで考えられたものでさまざまな工夫がされていると思いますが、奥委員、現場としてご覧いただいていたかがでしょうか</p>
奥委員	<p>事前に見せていただいたけれども、今回のハンドブックの改定に関して</p>

	<p>合理的配慮というのはすごく重要な単語になっているかと思います。ただ、見ているとハンドブックの別冊にしても合理的配慮というところが強調されていない部分があるので、できればそういったところを太字にするとかした方が、先生方もそこに注目して授業をしていくのではないかと感じます。</p>
川内会長	<p>ありがとうございます。 合理的配慮をそれほど強調していなかったのには、何か意図があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。 強調したほうが注目されやすいというのは見落としていた点でしたので、ぜひ対応させていただきたいと思います。</p>
川内会長	<p>ありがとうございます。 小学校のレベルで合理的配慮という言葉は難しいですか。</p>
奥委員	<p>難しいことは難しいですが、小学校 4 年生ならある程度説明すれば理解ができると思います。そういう意味でいうと、順番が合理的配慮の話が一番最後に来ていますが、この辺を最初にできるような構成とか可能なのでしょうか。</p>
事務局	<p>検討させていただきます。</p>
川内会長	<p>ポイントとしては合理的配慮という言葉覚えてもらうよりは考え方というところが重要なのではないかと思います。 これを全部読めばその流れというのはおよそ分かるだろうと思うのですが、要点をつかんで教えるためには全体像というか最初にはっきり示した方が伝わりやすいということですね。 他に何かありますか。</p>
井上委員	<p>ヒアリングに関して、児童の親御さんとかにはやったのでしょうか。横浜市でスクールカウンセラーをやっている方に見せたところ、障害の社会モデルに関して「スロープがないのがいけない」というようになったときに、この先生の教え方が悪いと親御さんから指摘されてしまうのではないかと、というようなことを言われました。その方はスクールカウンセラーなので、いろいろな意味で学校の先生とは違う立場で親御さんと関わっています。教育の仕方ところで、教え方への苦情などが出てくるのかどうか。 教員現場はよくわからないのですが、そのあたりのところの配慮や、もしあった場合にはどうするかというのは考えていらっしゃるのか。</p>
川内会長	<p>今のお話でちょっとわからないところがあったのですが、「スロープがない</p>

	<p>のが問題だということになったときに、学校の先生の教え方が悪い」というのはどうしてつながるのですか。</p>
井上委員	<p>言ってみれば、あなたの子どもが「僕勉強できないんだ。」と言ったときに、「あなたの子どもの能力が低いから」とは言えないじゃないですか。そのときに教え方が悪いと言ってしまう。スロープをつけるのと同じように「教え方が上手い人だったら大丈夫だよ」と言っちゃうのではないかという心配です。</p>
川内会長	<p>障害の社会モデルというのは、「何が悪い」とかということではなくて、「問題を社会の方の視点から見てみよう。今までは本人の側、本人に原因があると考えたのを社会の側の原因と考えてみよう」ということであって、それと教え方が悪いというのは。</p>
井上委員	<p>変な話、そういう風に考える親御さんもいるということです。要するに何が悪いというか「スロープがないから」と同じように、「先生の教え方が悪い」というように考えちゃう人もいるのではないかという。</p>
川内会長	<p>ある面、真理かもしれないなという気もします。難しい問題ですけれども、確かにいろんな人がいるいろいろな受け止め方をすることはありますけど、かといって社会モデルを扱わないわけにはいかないけど、今の障がいの考え方というのはまさに障害の社会モデルでこの辺の表現の仕方というのかな。</p>
井上委員	<p>要するにここまで出来上がっているので、そういうような考えが来たときにどう対応しますかという。親としては割とそういうように考える人もいるのではないかという意見です。</p>
川内会長	<p>つまり社会モデルというのが周りの社会の問題であるというような言い方をするのを、我が子の成績に引っ張ってきて先生の教え方が悪いからだというように言う親御さんがいるということですかね。そういう親御さんは多分いらっしゃると思いますけども。どうすればいいですかね。</p>
井上委員	<p>結論を出してくれということではなくてそういう考え方の人も世の中にいますよと。それぐらいこちらの方で把握しておければ、後々、解答とかできるのではないかという。</p>
川内会長	<p>社会モデルの考え方として説明すると、イギリス的な考え方では、「本人の問題ではなく社会の問題である」というのですけれども、アメリカ的な考え方や今、国連が採っているのは、「本人の要因と社会の要因の2つが絡まって起こるものだ」というように言っています。</p>

<p>奥委員</p>	<p>つまり、「先生の教え方が悪い」という人が「社会の方が悪い」という見方であるならばですね、「本人の要因というのも1つありますよ、それはあなたの努力が足りないのではないか。その2つによってあなたの成績が低くなっているんですよ」という説明になるわけです。国や国連が取っている社会モデルとしては。</p> <p>だから一方的に先生が悪いとかどこが悪いとかという攻撃の矛先をそちらに向けるといものじゃないですということを、先生がうまく説明できるかどうかですね。</p> <p>今お話聞いている、その質問がいくとしたら多分福祉総務課の方に行くのかなと思います。そしたらかなりお門違いのお話になってしまうので、そういうお話になった場合に福祉総務課がどういう答えを用意するのかが大事になるかなと思います。</p> <p>指導課など教育委員会の方に入った場合はそれなりに返答ができると思いますが、その辺のところかなと思いました。</p>
<p>井上委員</p>	<p>スクールカウンセラーの方もおっしゃっていましたが、教育現場にはある程度なんとかできちゃうだろうと。福祉の現場で作ったのであれば、作った課でそういう対応というのを考えておいたほうがいいのかという意見もありました。</p>
<p>川内会長</p>	<p>じゃあ市の方から何かお考えがありますか</p>
<p>事務局</p>	<p>想定はしていなかったもので、これから考えさせていただきたいと思います。</p> <p>基本的にはこのハンドブックの指導者用別冊を活用したりハンドブックそのものを活用して今後もイベントや学校現場に出向いたり、市民の方の講座の方に出向いたり、そういった活動は続けていきますので、その中でいろいろな方にご理解いただけるようにし、合理的配慮の話につきましても懇切丁寧に周知していくことを務めていきたいと考えています。</p>
<p>川内会長</p>	<p>合理的配慮が出てきた背景にはですね。何か問題があったとき、「あなたのリハビリが悪いのですよ、あなたの体の動きが悪いのですよ」というようになるわけです。世の中をバリアフリーにしようなんていう努力が必要なくなってしまう。今のままで手術を受けたり、リハビリを受けたりすれば良くなりますよという話になるわけです。それでは解決しない問題がいっぱいある。</p> <p>やっぱり社会の方もあゆみ寄らなくてはいけないのではないかと、ということでこの社会モデルという考え方が今採られている。なので、その辺りをきちんと説明できるように先生の先生か、この問題に向き合った方の力量とかですね、そこまで理解を深めておいていただけないとなかなか社会モデルということを第三者とか子どもに説明していくのは難しいかなという感じが</p>

	<p>します。</p> <p>私もいろいろなところで講演をしていますけれどもなかなか考えが広がらないというのを日々痛感していますので、ちょっと時間がかかるかもしれませんが。今の考え方というか国際的にはそういう方向で社会全体の改善を何とかしようよというようになっていくことを教育現場でもお伝えいただければと思います。</p> <p>他に何かありませんでしょうか</p>
佐藤職務代理	<p>今の本質的な話とは変わって形式的なところになりますが、指導者用別冊の概要版に重点的に取り組むべき 1 コマで対応する場合、2 コマで対応する場合、星印をつけて先生方は使いやすくなったのかなというように思っています。これ目次のところに赤星青星がついてはいますが、概要版の本文の方にもこの赤星青星をつけてあるとより使いやすくなるのかなという気がいたしました。それがまず 1 点目です。</p> <p>あと 2 点目としては時間をかけて心のバリアフリーハンドブックの改定を行ったわけですが、実際にこのハンドブックを使って授業をやった場合に子どもたちの受け取り方というのを何かしら感想なりアンケートなりで把握してこのハンドブックの意味というか効果というのを測る必要があるのかなというふうに思っています。</p> <p>それは学校の先生方の判断に委ねられるところはあると思いますが、この市として、この推進協議会としてこのハンドブックの効果を知るためのアンケートなり何なりのひな形みたいなものも、これ概要版に付けておくのか詳細版に付けておくのか詳細版のほうなのかもしれませんけど、そういうものを付けておいて先生方に協力を依頼するというようなことも考えておいていいのではないかと思います。以上 2 点です。</p>
川内会長	<p>このハンドブックもいずれ改定しなくてはいけないということがあるので、改定の際の資料としてどう受け止められているかをそれぞれの現場からアンケートというリアクションがあると整理しやすいのではないかと思います。</p> <p>何か事務局のお考えがありますか。</p>
事務局	<p>1 点目のほうはそうにさせていただければと思っております</p> <p>2 点目のアンケートの件について、何かしらフィードバックは必要だというふうに考えております。集計方法については今検討中ですので、またわかり次第こちらの協議会のほうで共有させていただければと思います。</p>
川内会長	<p>佐藤職務代理のお話だと、例えばこのハンドブックを学校に配るときにそのアンケート用紙も付けて授業をして、その後に出していただければいいのではないかというお話がありましたので、かなり早い時期でそのことも考え</p>

	<p>つつ、アンケート用紙を一緒に入れるとかそういうようなこともお考えいただければと思います。</p> <p>他に何かありますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>先ほどの修正案の注文がついたり、それからアンケートについてというのがありました。その辺はもう一度本協議会にかかってくるという形でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>2月の協議会のときに最終案としてお示しさせていただきます。</p>
川内会長	<p>来年度になると完成版が学校に配られていくということで、あと1回私たちは見るチャンスがあるということですね。</p> <p>特になければ、審議事項(1)については全て承認いただきましたので、次に次第の3報告事項(1)に入ります。</p>
	<p>3 報告事項</p> <p>(1)「福祉のまちづくりに関する市民アンケート調査」の実施状況について(中間報告)</p>
川内会長	<p>報告事項(1)「福祉のまちづくりに関する市民アンケート調査」の実施状況について(中間報告)について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料2の説明)</p>
川内会長	<p>今の事務局の説明に対して、ご意見、ご質問はありますでしょうか。</p> <p>確認ですが、例えば資料2の13ページですが、心のバリアフリーについての市の取り組みについて聞いているわけですが、12ページでは心のバリアフリーについて知っているが19.2%で、聞いたことはあるが意味は知らないというのが15.6%ありますね。13ページの回答者の母数が339人とありますけれども知っているという人以外は知らないままに答えているわけですね。知っていると答えた19.2%が母数になってその中での意見であるならば分かるけれども、知らないままに適当と言うか想像で答えているというのを一緒くたにしてしまうのはおかしくないですか。</p>
事務局	<p>以前お見せしたアンケート用紙の下の方に、心のバリアフリーについての解説は書かせていただいているので、一応回答した後にその項目を見て理解して書かれた方もいらっしゃると思うので、なかなかいり分けて集計するのは難しいかなと考えています。</p>
川内会長	<p>つまり質問をした後ネタバレラシというかこういうことです、というのを説</p>

事務局	<p>明しているけれどそれをきちんと読んで答えているかどうかは分からないということですね。難しいですね。</p> <p>他の皆さん何かご意見ありますか。</p> <p>例えば、資料 2 の 9 ページの窓口対応のコミュニケーションについて、資料 2 の方では問題や不便を感じている箇所があると回答した人が母数になっているので母数が 142 になっています。一方、まちだユニバーサル社会推進計画の 111 ページの方のは誰が回答したか書いてないですが、111 ページの方の母数は何人ですか。不便を感じている箇所があるという人を絞り込んでパーセントが出ているのですか。</p> <p>資料の方ではなく、計画 111 ページの方の母数の話ですと、全部を合わせているのでその下の手続用紙や以降の不満の部分については全体の母数のうちの何パーセントという形になっています。一方、今回用意した資料 2 は不便を感じている人のうちの何パーセントなのでグラフの大きさが少し異なるような形になっています。計画 111 ページの方の母数は 728 です。</p>
川内会長	<p>右下に書いてありました。同じ項目を聞いているけれど 111 ページの母数から資料 2 と単純にパーセントで比較しちゃ危ないよということですね。</p> <p>他にになにかありますでしょうか。</p>
飯長委員	<p>今回さるびあ会では中身よりも調査対象について発言させていただきます。若干協力させていただいて、さるびあ会ともう一つの家族会がございまして、そちらにもお願いして合わせて 20 程度回答させていただいております。ありがとうございました。</p> <p>そのときに気づかされたことが 1 つございました。調査対象を拝見するといずれも障がい者の場合に身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者手帳の所持者ということでさるびあ会の場合にはお願いした皆さんが精神障害者手帳をお持ちでした。ただもう一つの団体からは結果的に精神障害者手帳をお持ちの方をお願いしましたが、そちらからの反応として実は精神障害者手帳を取得していない方が非常に多いとのことでした。どうしているかという障害年金をもらっている人の方が多いです。多分市の方でお調べになれば町田市で精神障害者手帳を取得している人が何人かということとそれから精神障害だけ取り出しているかどうか分かりませんが障害年金をもらっている人が何人かということも分かると思います。一部もちろん重なっていると思いますが、重なってない部分はかなりいるということです。精神障害者手帳を取得していない方の中で結構引きこもりとか医療福祉にうまくかかっていなくて、ただ生活があるから障害年金は取得しているということは、少なくとも医療に一度はかかっているわけですね。その辺をどう考えたらいいか、ご報告だけさせていただければと思いました。これをどうしたらいいかという知恵は出てまいりませんが。なかなか難しい問題だなと思いました。</p>

川内会長	<p>こういうアンケートでは、本当に深刻な問題はこのアンケートに答えられない人のところにあるとかありますが、市の方は何かありますか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。今回は経年経過を見たかったというところで手帳に絞らせていただきました。</p> <p>また 5 年後の調査のときにそういったケースの方もいらっしゃるといことは引き継いでまいりたいと思います。</p>
川内会長	<p>しっかり引き継いでくださいよと言うしか言いようがないのかもしれませんが。確かにそういう網から異なる網があってそれぞれの漏れがある人たちがいるというので、それをどうしていくかというのはかなり難しい問題ではありますね。</p>
飯長委員	<p>今回初めて当事者の家族のことを気にかけていただいて少数ではあれというのは私どもの力が足りなかったのですが、当事者に近いところの精神障がいについてはなかなかデータを得にくいと思いますが、少しでも反映させていただいたとすればそれは現在のスタッフの方に御礼申し上げたいと思います。</p>
川内会長	<p>問題は解決してないので、なんとなくすっきりしない感じがしますけれども宿題ということにしか今の段階では言いようがないということです。</p> <p>他に何かご意見ご質問ありませんでしょうか</p> <p>ありがとうございます。報告事項（1）についてはご承認いただきましたので、次第の4 その他に入ります。</p>
	<p>4 その他</p>
川内会長	<p>なにかこの場で共有事項がある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
陶山委員	<p>お手元に行政の方から配っていただいております、心のバリアフリーの日 12 月 3 日というのを配らせていただいております。これについて取り組んでいる内容などについてお伝えさせていただければと思います。</p> <p>私は障がい福祉課の方で行っている町田市障がい者施策推進協議会に商工会議所を代表して出席をしております。その中で一昨年、障がい者差別解消条例の策定委員会が設置されて、商工会議所を代表して出席をしていました。合理的配慮を取り組むというテーマの中で当事者とサービスを提供している側の意見を取り入れていただきたく、町田商工会議所の中で合理的配慮についての理解や取組についてのアンケート調査を行ったところ、心のバリアフリーも含めてですが、理解が進んでいないことや周知ができていないという回</p>

答結果が多かったので、それについて理解を深めていくための何らかの取り組みが必要だろうということで進めてまいりました。合理的配慮を各企業や商店などが行えるようにということで取り組んできたところではあります。広く子育て中の方や高齢の方も巻き込みながらこの「心のバリアフリーの日」ということでハンドブックに合わせて取り組んでみたところでございます。

今回の議題でもございましたが、社会の側から見てみようというところですよ。特に小学校 4 年生に向けて心のバリアフリーハンドブックを配布して学校の教育現場でそれを子どもたちに学んでいただいているという中で、社会に出たところで大人たちも社会も取り組んでいるんだねというところの連続性を持たせたいということもデザインを統一して取り組んだ背景でございました。小さな一歩で終わりましたが、12月3日行ってみました。今日ご参加いただいている委員の中にはご協力をいただいた皆様もおいででございますが、社会モデルを理解しようということが主な目的でございます。このチラシの裏面に取り組んでくれたお店、実はこの後も二次元コードを読み取るとさらに店舗や商店などが増えているところではあります。正直に申し上げて合理的配慮が全部整っている、社員教育も済んでいるのでぜひいらしてくださいというお店や企業は実はこの段階ではございませんでした。ただ経営者・従業員も含めて合理的配慮や心のバリアフリーの理解を進めていきたいというような会社の方たちが、まだ十分はできていないですがぜひ来ていただいてその気づきを我が社、我が商店、我が店舗が取り組むべきことの気づきにさせていただければということでやっていただいたところでございます。

参加していただいたお店や来ていただいたお客様、支援していただいた団体の皆様と 2 月に振り返りの会議を町田商工会議所で行いまして、1 回だけで終わらせずに根気強くずっと続けていこうと思っております。今この方向でと思っているのが 12 月 3 日をスタートの日にして今回は平日 1 日のみの開催だったので子どもと一緒に出かけるとかお仕事している方が出かけにくいというようなご意見も多数頂戴しましたので、「心のバリアフリーウィーク」ということで少なくとも 1 週間はやってみるということや、参加いただくお店や企業もさらに多く増やしていこうとそんなことに取り組んでいければと思います。

大きな目的としてはわざわざこういった日を開催しなくても毎日が心のバリアフリーになる町田市ということを目指しているところではあります。理解を深めるために継続していこうと思っておりますので、引き続きこの協議会の皆様とも情報共有しながら進めていきたいというように思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

川内会長

こういうふうにより市民の側からいろいろなことをやろうという動きが出てすぐいいことだと思ひます。今のご報告について何か感想とかありましたら

<p>飯長委員</p>	<p>ご発言いただければと思います。褒めるということも感想です。</p> <p>よくやられたと私は思います。私たちも商店の方々にアプローチしようと思しますがそれぞれの方の業態によって例えば何月何日何時にお集まりくださいというようなことが非常にお店の方々は難しく、なかなかこうやって、たくさんの方の事業者の方が集まって一方向で取り組もうというのが難しいのは私もいろいろと実感していますので、こういうことをやられたというのは非常に立派なことだろうと思います。</p> <p>この9月にあったことを1つご報告させてください。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、私ども、さるびあホームという一種のシェルターを運営させていただいて、市からの補助金もいただいております。ありがたいと思っております。かなりの部分、満室というか使われておりますが、実はその扱っている不動産屋がこの9月に変わりました。そこで大変な差別的な発言にあいました。</p> <p>今までの不動産屋は大変ご理解があって、いろいろトラブルも過去にはありましたが、それなりにご理解いただいて対応していただいたところでした。それで、不動産屋がちょうど変わり、新しい不動産屋の手続きをする際に、「あなたのところのサルビアホームのところからとんでもない大きな音がした」ということで怒鳴り込まれました。私は対応して急ぎ調べて「そうじゃない」ということを相当調べた上でお伝えしましたが、本当に信じてもらえなかったです。「あなたのところに決まっている」と。精神障害の人は悪いけどって一言言うのですが、「悪いけどそういうことを起こすんだ」。それで、「部屋の中にカメラを入れてくれ」と言われました。そうすると障がいのもっと前の人権の問題です。「いくらなんでもそれはできない、注意事項ってというようなことをお願いすることまではできるけど」と伝えました。私もその不動産屋に行ってお挨拶や手続きもし、その間でそうでないということは認められました。そしてだいが私個人に対する対応は変わりましたが、猛烈な差別的な言葉を投げかけられてもう驚きました。</p> <p>私は個人的な心のバリアフリーの問題だと思いたいですが、「ああやっぱり精神障がいの人ってこういうふうに思われそして扱われるんだ」と言われて思ったので一言発言させていただこうかと思ってお時間をいただきました</p>
<p>川内会長</p>	<p>特に障がいのある方の中でも精神障がいのある方について非常に強い偏見というのが残っていますのでそういうことがあろうかと思えます。それについてもそういうことを考えるという点でこの市民の側から、このイベントをやっていく、このイベントに参加する人たちが広がるということで世の中の雰囲気や状況を少しずつ変えていくというのは非常に重要なことだと思います。</p> <p>それから飯長委員の今の具体的なお話については、少し収まってきたようですけども、もしもどうしてもダメだというときには東京都や町田市も持つ</p>

<p>本間委員</p>	<p>ていると思いますが、相談窓口があります。これは法律でそういう相談窓口を作らなくちゃいけないというのがあるので、そういうところに持ち込んでいただくとその担当の方が、どっちが良いとか悪いとかを判断するのではなく両者の間を取りながらこちらの方の言い分はこうですよ、こちらの方の言い分はこうですよというようなことで折り合いをつけていくというようなことをやってくださいますので、どうしてもというときにはそういうところを頼るというのも1つかなと思います。</p> <p>12月3日に開催されたことでそれから裏面にいろいろなお店が紹介されているのを見て大変嬉しく思いました。私たち障がいを持つ子どもの親というのはやはりお店の方や他のお客様に迷惑をかけるのではないかということで、なかなか外でレストランで食べることを躊躇しておりましたが、このように優しいお店があるということをお客さんにお伝えして、一度皆さんに行ってみましょうということをお呼びかけたいと思います。行って見て本当に優しいかどうかなんですけど、経験してみても皆さん喜ぶと思います。そしてこの入っているお店だけではなくて町田市にどんどん広がっていくことを願っておりますのでよろしく願いいたします。</p>
<p>陶山委員</p>	<p>ありがとうございます。ちょっと付け加えさせていただければと思います。各お店がなぜ障がい持ちの方をお断りせざるを得なかったかということ、アンケート調査の中で例えばそれは障がいの方だけではなくてすぐ泣いてしまう赤ちゃんや大きな声を出してしまわれる認知症の方も含めて迎え入れようとしても、「他のお客様の理解が得にくい」ということが割とありました。今回大きなテーマにもなっていますが、心のバリアフリーハンドブックを教育現場で小学4年生から町田市の子どもたちがそれを深く理解をして社会に出るということを期待することもございますが、他のお客様が協力してくれたらもっと迎え入れられるようになるという感想を持っているお店も正直ありました。</p> <p>少しだけ恐縮でございますが具体的に例をあげさせていただくと、町田市内のカウンターだけある行列ができるラーメン屋さんに車椅子の方が並んでいて自分の番が来たら一人でオペレーションしているので車椅子の方には出せないですというように店主は断ざるを得なかったそうです。</p> <p>ですが、その店主の方と話をしたときにカウンターの端にいたお客さんが渡してくれたらどうにかなったかもしれないなど。その方の後ろに並んでいる人がよかったら僕が渡してさせあげましょうかって言ってくれたらもしかしたらそれは解決の糸口が見つかったのかもしれない。あと、公共交通を担ってくださっている神奈中のバスの運転手さんも雨の中車椅子で傘をさして待っているバスを遅れちゃいがちのところ降りて乗せようと思ったら、他のお客さんから早く行けよって怒鳴られ、大変辛い思いをしたという運転手もいらっしゃいました。当事者とお店は一生懸命取り組んでいくということ</p>

	<p>は間違いなく良い形に進めていければと思いますが、バスと一緒に乗り合わせた市民の皆様の気持ちや一緒にお店に来ていただいている市民の店の気持ちを少しずつ上げていくことも重要だと思った次第です。</p> <p>そのこともございまして、町田市の障がい者差別解消条例（町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例）は町田市民に求めることも含まれておりましてこれは町田市の特徴だと思っています。</p> <p>あと一般社団法人東京都建築士事務所協会町田支部の佐藤委員とはハード的には建築でバリアをなくしていく取組についてお話をしましたが、一緒にいる人がなんとかするという、段差があるお店の前で止まっている車椅子が来たら持ち上げましょうかって言える社会的づくりも必要になると思います。</p> <p>また、町田商工会議所は不動産部会もございまして、障がいを理由に部屋の提供を断ってはいけないと、条例が定まったところで不動産業界は勉強会とかしていかなきゃいけないと思っています。よろしく願いいたします。</p>
川内会長	<p>大変心強いご発言だったと思います。他に何かありますか。</p>
本間委員	<p>不動産関係のお話です。これは良い話で、お友達が普通のアパートを借りて24時間ヘルパーさんを7人雇って生活しています。そのアパートを借りるときもその方は聴覚障がいと重度の知的障がいがあるので大きな声を出してしまうということで何十軒も断られましたが、ある不動産屋さんに行き着いて、いいですよと聞き入れてくださったそうです。その方は2階にお住まいになっていますが、ダンスみたいなのが好きでドンドンとするので1階の方が大家さんに「うるさいです」と言われたそうなんです。そしたら大家さんはとてもいい人でそんなに不快でしたらお出になっても構いませんよって言ってくださったそうなんです。それでもう涙が出たってその方がおっしゃっていて、それで快適に暮らすことができたそうです。</p> <p>そして今度1階にいらっしゃる方にこういう方が住んでいらっしゃるけれどもご理解いただけましたらどうぞお入りくださいというように言ってくださっているのが本当に号泣したって友人は言っております。そういう大家さんに出会ったことが本当にもう幸運だっておっしゃっているのです。そういうところが増えていくといいなと思います。</p> <p>ですが不動産屋は利益を上げていかなければいけないのでうるさい、奇声をあげる、そういう子たちを受け入れてくれる不動産屋は難しいかなって、不動産屋の気持ちもわかります。山の中の一軒家ではないのでやはり一緒に住んでいる方の迷惑、騒音っていうのは大変厳しいと思います。生活していて、私は難しい課題だと思いますけれども、そういう温かい方もいらっしゃるということを報告していただきました。</p>
川内会長	<p>今のは大家さんに巡り合ったのがまさに偶然のたまものだったろうと思</p>

井上委員	<p>いますし、それが必然とまでいかななくてもちょっとずつ社会の雰囲気を変えていくことによって広がっていく、そういうことを長い年月かかるかもしれませんがやっていかなければいけないと思います。</p> <p>他に何かありますか。</p> <p>先ほどの質問も含めて、レベルの問題が非常にありまして、高いレベルで話ができる方とそうではない理屈では通用しない方がいらっしゃいます。理屈で通用しない方はどう対応していこうかなということを含めて私はいつも考えているところです。</p> <p>今回町田ハンディキャブ友の会で取り組みました、のは「車いすで冒険、原町田七福神めぐり」、親子を対象として車椅子体験をしてみましようというイベントの紹介をします。多分この中に実際に車椅子でまち中に行ったことがない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回はお子さんに的を絞りました。</p> <p>実はまち中を歩くのは 3 回目です。資料で写真があるので回します。大人の方を対象として国の事業の補助で 2 回ほどやっていて、大人の人たちも回ると必ずいろんなことに出会います。それをこの七福神ということで子どもたちに体験ミッションということでテーマを出して歩道や道路の段差や傾きを体験してみましよう、あと人ゴミの中を移動してみましよう、飲食店に入ってみましようと皆さんにお伝えして回っていただきました。小学生と親で 7 組応募があって 1 組がお休みだったため、6 組でまわりました。</p> <p>初めて車椅子を乗るという方も多く、今、回している写真にあるように言ってみれば初めて車椅子に触りましたという方が多くいました。感想として毎度出てくるのが「凸凹は走りづらかった。」です。車椅子の後ろのタイヤは空気が入っていますが、前はゴムの塊でするので、ガツンと当たった瞬間に脳天に突き抜けるようなものがあるので、こういうことを体験してもらいました。お配りしたプリントを順番に見ていただければ 2 班では、こちらの方たちの家族はトイレなどの入りたいところに入れなくて実際に入れるような場所を探すことを目指していましたが難しいということを感じたそうです。3 班は少しでも気を抜くと横に曲がってくる。車椅子をご利用の方や押している方は体験していると思いますが歩道は、まっ平じゃないよというようなことでどうしても曲がってしまうのにそれに対してどうしようということ。4 班のところは先ほどの陶山委員の言った話とも重なりますが、ラーメン屋さんに入ったら店はがらがらでそんなに混んでないのに、自分たち車椅子用の席はここです、と指定されてしまうので他のところに入れなくて 20 分待たされたとのことでした。お店はそういう方針なのでしょうけど、そのあたり臨機応変があっただけかなとは思いました。あと、人混みを進むのが難しい。車椅子の方はアキレス腱、前の歩いている方に当てちゃったなどいろいろありますので、その辺は事前に講習をしました。5 班のところでは七福神の一箇所の母智丘神社に砂利道があって、車椅子が進まなくなったという体験もしまし</p>
------	--

た。長い坂を登ると、お母さんが重かったという感想もありました。乗っている方と車椅子を押す方の体重差によって車椅子に行けないところがあり、親を乗せて子どもが押そうとしても行けない場所はいっぱいあります。そういうことを体験していただくと思い、親子で乗る人を取り替えてみましょうと言っていたら「お母さんが重かった」という感想が出ました。お母さんはすごい軽そうな人でしたが、やっぱり子どもにとっては重いそうです。6班のところは車椅子で乗ったとき視点が低くなったので道のゴミがよく見えます。実は車椅子に乗ると小学校 3、4 年生ぐらいの身長になりまして大人が見ている視点と全く違います。突然骨折して車椅子になった人が皆さん言います。怖い、どうしてもこわい、そこが出ているのがこの 6 班で「車椅子に乗っている人は楽だと思ったけど意外に怖かった。」という感想でした。

実際こういう体験をしていただくことでお子さんたちが将来に向けて現実には本当はもっといろいろなことをお話ししたかったです。福祉総務課とも一緒にやっていたので心のバリアフリーについての説明もしていただき、それとともに車椅子を使う方やその方たちを見る視点が「かわいそうだ」と言う子どもたちが結構多くてかわいそうじゃないよっていうことを伝えたかったです。なかなかそこまで行き着かなかったです。

実はこの前にまちカフェというイベントで車椅子のまま乗れるリフト付きの車両と競技用の車椅子の展示、試乗会をやりました。子どもも大人も多く来ていただきましたが、この中で一番感じたのは議員さんがよく来ていて、私やってみます、私車椅子乗るの初めてですよ、と言っている方が多く、そういう人たちが福祉を語っていたのかなと思いました。ぜひ議員さんの新人研修などで七福神を回っていただけたらいいなと思います。

これは多分公共というところの団体の方たち、多分タクシーの運転手とかも経験したことがない人がいると思いますのでより多くの方が体験することによって自分たちが思っていた世界とは全然違う世界だということをお伝えしていきたいなということです。

同時にこのちょっと前に町田第五小で 3 クラス分車椅子体験の講習をやりました。子どもたちが感想をいっぱい書いてくれて涙が出る感想がありました。「将来私は介護の仕事をしたい、そのときに絶対これを思い出す。」おおーと思ってドキドキして読んでいますが、実際にそういう形で少しでも広めていきたいと同時に、きちっとしたものを伝えていきたいと思っています。このような取り組みをしていますのでこんな感じで車椅子の体験をしながら、将来に向けても現実の今も皆さんにより理解をしていただければ声をかける回数も増えてくるのではないかと思います。

川内会長

今のご報告について何かご発言ある方いらっしゃいますか。

都筑委員

車椅子なので感想を言わせていただきたいです。こういう体験をする機会を作ってくださいってすごく嬉しいです。ありがとうございます。大人の方でも

	<p>子どもの方でも車椅子に乗って経験していただけると分かってもらえるのかなと思うので、とても嬉しいです。</p> <p>最近、私の周りの小学生がよく声をかけてくれます。遠くの方からじっと見ているから何かなと思っていると大丈夫ですか?とかお手伝いすることありますか?と結構声をかけてくださる小学生が多いです。大人の方ももちろん昔に比べて多いですが。そのときにはありがとう大丈夫よとか手伝ってもらえないときには丁寧に笑顔でお答えするようにしています。せっかく声をかけてくれたのに嫌な思いをさせたくないです。</p> <p>先ほどバスの話もありましたけどやっぱり私たち車椅子だと行きたい気持ちより他の人に迷惑をかけてしまうということの方が嫌で我慢することが多いです。中には積極的にバスに乗っている方もいらっしゃいますが、すごい素晴らしいなと思っています。</p> <p>こういうように少しずつ町田市の皆さんの気持ちが全部の障がいの方に対して変わってくれる日が本当に来ることを努力しながら頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございます。</p>
川内会長	<p>他に何かありますか。</p>
田中委員	<p>私も色々自分が車椅子に乗らなくてはならない出来事がありました。そういうときに娘にガタガタ道を押してもらってもらわないと成瀬駅に出れないことがありました。そのとき、娘に「ママ体重落として」って言われましたが今落とせと言われてもみたいなことがありました。各家庭の前の道もかなり傾斜がきつくて自分でももちろん進むのがありますが、押してもらうとなお辛いということもありました。</p> <p>今七福神回りというのを伺いしましたが、ぜひ視覚障がい者体験としてアイマスクをして体験できたらいいのかなと思います。というのは本当に見えないで歩いていると点字ブロックがないところがいっぱいあります。点字ブロックで行けないところは自分たちで坂や段差とかそういうのを目印にしています。その目印を自分たちの中で作っています。こういう部分でもぜひ体験していただける場を作っていただければと思っています。</p> <p>私は点字ができませんが、アイマスク体験は参加するようにしていて、小学生の子たちに一言二言声かけてみてねと言っています。なんとかテーブルの周りを早く終わりたいと思って歩くのがすごい早くぐるぐる回る子がいますが、早すぎる早すぎるとか言ってゆっくり歩こうねっていう声かけをしながら歩いたりもしてすごくいい体験だと思っています。町田市でやっていない小学校も多くあります。町田市視覚障害者協会も協力していますので、ぜひお声かけいただければと思います。</p> <p>また、「心のバリアフリーの日」の件で、お店の協力団体ですがこうしてあげたらいいのと思うことを一言お話しさせていただきます。知的障がい者の愛の手帳を持っている弟が私にはいますが、弟が床屋に行くとやっぱり順番</p>

が待てないです。だからこういう子たちを優先的にしますよっていうお店とかをどんどん増やしていったって欲しいなって思います。

あと私たちが行っている美容院とかもバリアフリーなのでぜひこういう団体に登録してくれませんかというお声掛けはできるかと思います。もし何か私たちにできることがあれば。そういうお声掛けも各店舗にしていきたいと思いますし、ガイドヘルパーと歩いていると、周りにこういうお店があります、ああいうお店がありますというように情報はある程度いただけますが、まだまだ普及してきていませんが、ナビレンス¹というものがあります。お店の外のところに貼り付けていただきますと、例えば私たち 360 度回転してぐるぐると持ってそれが映り込んでいくとイタリアの何とかというお店ですというのを iPhone 上のカメラがキャッチして、イタリアのお店があるとか情報を取れる時代がきていますが、まだ追いついていけないというのが現状です。

バスの時刻表も何分に次のバスが来るかどこ行きが来るかということもバスの扉やバス停などに付けてくれれば私たちも十分に時刻を判断することができます。

ナビレンスというアプリですが、導入していただけることを祈りたいと思っておりますのでぜひ皆様にご協力いただき知っていただくチャンスをどんどん作っていただければと思います。

川内会長

ナビレンスは大阪万博でもいろいろなところに使われていました。最近では点字ブロックの上に二次元コードを入れたりとかあるいは別のコードを入れたりとかいろいろな誘導道具があります。それはあんまり費用がかからずにできることですし、理解のあるところには導入していただくといいかなと思います。

他にありますか。

木村委員

12 月 3 日に町田市商工会議所から当協会の会長のほうに連絡があり、私も手話サークルまちだと一緒に協力をいただいて 5 団体で 5 人と聞こえるもの 2 人と一緒にいくつかのお店のほうに分担をして行きました。そのときにアンケートを手元に持っていなかったのが記憶にある中で少しお話ししたいと思います。

1 つはそのお店に行ったとき、私たちは音声でしゃべれないためまず番号を手で 8 人と表しました。すると、相手の方が英語でしゃべってきました。その次に中国語で話をされました。それで聞こえる方が日本人ですよ、日本語でお願いしますというように言いました。そのお店の方はろう者と会ったことがないと言っていました。そのため、外国人と勘違いして申し訳ありませんと言われました。やはり外から見て分かんないので誤解をされたのだと思います。

そういうことでいろいろと知ってもらうためにこういうお店にもハンドブ

ックを配ったらいいのではないかと思います。

あともう1つ、聴導犬についてです。連れて行こうと思っても受け入れてくれないお店があります。聴導犬というのもお店が良くても他のお客様のことを考えて断られるというようなそういう課題があると思います。やはり衛生面でいろんなルールがあるということで私たちも交渉することもできなかつたです。やはり聴導犬も他の犬と同じように出掛けてほしいということでそういういろんな課題があるということがあります。それがなかなかお話ができないので聴導犬協会の方からもそういう話がありました。

他にも銀行に行って筆談をお願いしますと言って、担当の方が筆談してくれますが、返ってくる内容が分からないということがあります。

他にも聞こえないということで、聞こえる人の世界の中に入るとやはりそれと同じ意味では情報が入らないという面があります。そういう意味で孤立を感じやすいです。そのため、聞こえる人からも聞こえない人にいろんな情報を教えていただきたいと思います。聞こえないということは全然情報が入らないので孤立しやすいということ、そういう立場であるということを皆さんに理解していただけると嬉しいと思います。そのこともこの心のバリアフリーハンドブックの方に載せていただきたいなと思います。

川内会長

聞こえない方とのコミュニケーションでは筆談ということがとりあえず聞こえる者としてはできるのかなと思います。筆談ってこういう言い方をすると語弊がありますが、丁寧に文章を書いてはダメなんです。例えば「電車が遅れていますからしばらくお待ちください」なんて書く必要はなくて「遅れ」と書けばそれで終わりです。そういう筆談のコツを覚えておけばいいのです。

さっき木村委員がおっしゃった、何が書かれているかわからなかったというのは多分長い文章を読むのは生まれてからずっと聞こえない方々にとって、私たちが普段音声言語で使っているような長い文章を文字で読み取るというのは結構トレーニングがいる話なのでむしろ項目でポンポンとやるというほうが話は通じやすいです。

それから聴導犬のお話がありましたが、聴導犬、介助犬、盲導犬を合わせて身体障害者補助犬というのは20年も前から拒否してはならない、だから受け入れなくちゃいけないとされています。どうしてもお客さんの中に動物のアレルギーがある人がいたりして大変なことになりそうだというときにはそれはしょうがないかもしれないけども、そのお客さんのことを考えてというのが断る言い訳になっている例が非常に多いので、そのときのお客さんに対して犬を連れてきた方、犬という言い方も実はペットとすごく間違われやすいですが、補助犬については衛生管理をするのは飼い主の義務になっていますので、補助犬は基本的には衛生管理されています。それからトイレも飼い主の指示によって排泄しているというような普通のペットとは違うという認識が世の中にないので、そういう犬イコールダメというようなことになりかねないので、その辺の理解というのはとても重要だろうと思います。

気になっているのは12月3日の心のバリアフリーの日のパンフレットの表面です。例えば「こんな配慮があります」ということが書いてあって、ここにその筆談ボードやジェスチャー対応というのがあって4項目書いてあります。これは全然間違いじゃないというか正しいですが、この合理的配慮というのは、当事者の側がこうしてほしいというところから始まります。だから当事者の方が何も言わずに忖度してくださいよ、という態度を示すとそれは基本的には合理的配慮の考え方ではありません。当事者の側も「自分は何々をしてほしい」ということをきちんと相手に言うという姿勢を持たないといけません。お店の前でなんか気がついてくれないかなと思ってずっと待っているというのはこの合理的配慮の範疇には入りません。お店の人に対して「私入りたいですけど」と一言言えるかどうかというのは当事者側の姿勢に求められていることなので、そのことは間違えないようにしないとです。

よく当事者の方から合理的配慮で何をしてもらえますかというような質問がありますけれども何をしてもらえるかではなく何をしてもらいたいかというのをきちんと伝えられるかということを求められているということ覚えておいていただきたいです。

それからこの車椅子体験、これはずっとやられているということで非常にいい取り組みだなと思います。例えばデコボコで走りづらかったというのが感想として出ていますが、平らな道だったら走りやすかったとそこまで気がついてほしかったです。感想でそこまで書いてもらうというのも難しいとは思いますが、どうしても怖かったとか大変だったとかいう障がいに対してのマイナスのイメージを植え付けてしまうような体験が非常に多いです。確かに大変なこともあります、こういう場所だったら楽しく過ごせているよとかこういう場所になると動きやすいよとかというところまで感想文の中に出てくるといいです。一歩進んだ今までのただただ大変さを体験する体験とはまた違ったものになってくると思います。

障がいに対してマイナスのイメージをずっと引きずらないようにすることがとても難しいことだと思います。だから障がいになるとお気の毒ですとかなりたくないとか怖いとかいうようなことにつながるわけです。障がいがある人は障がいがある人なりに人生の楽しみ方というのがあるというところまで理解が深まるといいかなと思います。

他にどなたかご意見はありますか。

いろいろご意見ありがとうございました。

今回12月3日の開催にあたりまして町田市の聴覚障がいをお持ちの方の団体の皆様とご相談を申し上げながら進めていこうと思ってやりましたが、このお店は手話ができる人が当日いますかっていうご質問をやっぱりいただきました。正直申し上げてそこまでの準備ができてなかったり、視覚障がいの田中委員とはもう少しスマホの使い方とか進めていけたらと、当日を迎えてすごく反省もしたところです。実は今回手を挙げてくださったお店の経営者

陶山委員

	<p>って比較的若い方が多かったです。できてないけど迎え入れてみて気づきにしたいというように。なので会長もおっしゃるように、「何を困っていらっしやいますか」って聞ければいいからねと言ってみているところでございます。</p> <p>今日こうしてお話をさせていただいたので次回開催に向けてもう少し取り組みができればと思います。あと 12 月 3 日だけじゃなくてウィークにしていってやがては毎日がこうなるべきだっていう希望も申し上げましたが実はお店の経営者たちがどういう障がいをお持ちの方、どういう配慮が必要な方がいつ何時何人で来てもどうぞっていうことはなかなか難しいっていうのがあります。障がいをお持ちだったり配慮が必要な当事者の皆さんとも共有するということと言うと、先ほどの床屋とかまさにそうですが、ハサミ使うから頭が動いちゃう小さなお子さんにカットするのは他のお客さんで手が回らないときにはなかなかお待たせしちゃうこともあるかもしれないから難しいっていうのがあります。</p> <p>趣旨とはずれるのかもしれませんが、実は何月何日何時にこういう方たちが行くということが前もってわかっていたら最大限その段階でこういう配慮をしていただきたいということを予約の段階でお電話いただければそれはお断りせずにお迎えして不快な思いをさせないように準備を整えたいっていう方もいます。今回皆さんから意見を頂戴したところでございますので、そんなことも取り組んでいければなと感想でございます</p>
川内会長	<p>ありがとうございます。町田がだんだん明るくなっていく感じがします。他に何かありますでしょうか。</p>
井上委員	<p>町田ハンディキャブ友の会では、歩行の難しい方の送迎と一緒にバリアフリーマップというご存じの方の方が多ければいいのですが、市内の約900の店舗の障がい者トイレがあるところを回って写真を撮って動線がどうなっているかと、筆談も可というようなことをピクト表示しています。もし可能でしたら、町田市バリアフリーマップⁱⁱで検索して頂ければホームページが毎年1回更新しているのでほぼ直近のデータになるので、見て頂ければいいなと思います。</p>
川内会長	<p>これ毎年更新ってものすごい労力ですよ。</p>
井上委員	<p>今やっていますが、だいたい1000件ぐらいに前のホームページを印刷して送ってこれでいいですかって聞き、違うというのがだいたい200から300ぐらいあります。その大きいものっていうのを時間の変更とかそういうとも基本のところは変わらないのですけれども、ちょうど今12月でやっている最中ですが、年1回の更新です。</p>
川内会長	<p>ものすごい労力がかかっていると思います。ホームページで見られるそう</p>

田中委員	<p>なのでぜひご覧ください。 他にありますでしょうか</p> <p>資料の中に災害があったときの避難施設での不安っていう部分が非常に多かったかと思います。私たちも視覚障がい避難所に行って全く慣れないところでどんな感じで避難場所が作られて誘導の部分で、トイレ行ったりするのにその足元を誰か踏んじゃったらいけないとかそれが一番不安です。そんなことするなら家にいた方がいいやって人が非常に多い意見の中に入ってしまおうと思います。</p> <p>そんな中で必ず用意しておいて欲しいなと思うものが1つあります。今、点字ブロックの代わりになる細い線状のお部屋の中に敷く誘導ブロックというものがあります。例えばそういうものを各避難所の施設でご用意しておいて、例えば視覚障がいの方はできるだけトイレ近辺の方に場所を構えていただいて、そこから床に貼っていただけるようご用意いただいたりすると少しの不安は解消されるのかなと思っています。</p> <p>ココテープという3センチぐらいの幅でロールになっているものです。それをたどっていくと歩けます。本当に細いものなので例えば車いすの方の迷惑にもならないし、自分だけが白杖に頼れるようなものになっています。剥がして何度も使えますので再利用も可能です。ご検討いただければと思います。</p>
川内会長	<p>他に何かありますでしょうか</p> <p>ありがとうございます。以上で本日の議題はすべて終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>本日はご審議いただきありがとうございました。</p> <p>次回の協議会の予定でございますが、2月頃を予定しております。まだ調整中でございますので、また追ってお知らせいたします。</p> <p>これを持ちまして、2025年度第2回町田市福祉のまちづくり推進協議会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

ⁱ ナビレンス：視覚障がい者や高齢者の移動を支援するスマートフォンアプリです。スマートフォンのカメラでスキャンするだけで読み取ったタグに含まれている必要な情報を得ることができます。

ⁱⁱ 町田市バリアフリーマップ：<https://barrierfree-machida.com/>